



NEWS

2012 No.254

5月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

高齢者にやさしい自動車の必要性高まる

知事連合会推薦の2人乗りEVが中心コンセプト 日本自動車公正検定協会(NAFCA)による 先行販売も始まる

高齢化社会の深まりとともに、高齢者専用の移動手段が大きな課題になってきました。軽自動車よりもコンパクトで、自動車と自転車との間に位置づく新たな区分の乗り物として検討が始まっており、その世界では電気自動車(EV)が主役の座に就いています。



地方の高齢世帯を中心に
確かな需要が見込めるといふ小型EV「チェンジ」

2009年に発足した「高齢者にやさしい自動車開発推進知事連合」(会長=小川洋福 岡山知事)は、高速道路は使用せず近距離ドライブ専用の高齢者用2人乗りEVの車両規格、保安基準を早期に創設してほしい、と国土交通省に要望しています。

日本自動車工業会の調査によると、自家用車ドライバーの35%、概ね3人に1人が65歳以上の高齢者です。同時に地方圏の郡部では過疎化が進み、公共交通の維持もままならない状況が広がっています。そうした地域を中心に高齢者が生活を維持するためにも専用の自動車が必要になっており、その要望が高まっているのです。

知事連合会が打ち出した「高齢者にやさしい自動車」のコンセプトは、①サイズは長さ2.3~2.8m×幅1.0~1.4m×高さ1.5~1.6m、②定員は2人、③最高速度は時速60km以下で、高速道路は走行不可、④

家庭用電源で充電可能なEVで、航続距離はヒーターフル使用時でも30km以上、⑤駆動モーターの最大出力は10~20kW(車両重量は300~700kgと想定)一というものです。

昨年10、11月に取り組んだ実証実験の結果、当初、横並び2人乗りを想定していましたが、タンDEM2人乗りでも十分として車両幅の下限を少し引き下げた一方、最高速度に応じた車体強度などの安全性確保を必要としたほか、まわりを走る自動車からわかりやすくするための被視認性の確保、バッテリー切れへの不安解消対策といった開発にあたって留意事項が付け加えられました。要は、軽自動車と原動機付自転車に位置づけられるミニカーとの中間にあたる新コンセプトの小型EVがほしいということです。

しかし、これに類する小型EVはすでに輸入販売を行うところが出ています。日本自動車公正検定協会(NAFCA)が並行輸入で先行販売を始めている小型EV「チェンジ(Change)」がそのひとつです。韓国製EVで、現在、本格販売を始めるための準備を進めています。

チェンジは知事連合会が求めている車両規格がないために軽自動車扱いになります。また、動力モーターの出力は7kW、知事連合会が打ち出したコンセプトより若干非力です。知事連合会が行った実証実験にはNAFCAが先に取り扱っていた小型EV「イーゾーン(e-ZONE)」が参加しているなど、

NAFCAの取り組みは知事連合会の議論に影響を与えてきました。NAFCAによると、こうした小型EVのニーズは「多くはないものの着実にある。ニッチな市場で年間500台ほど」(井上康一副理事長)といっています。

販売を始めたばかりの小型EV・チェンジはリチウムイオン電池を搭載しており、値も張ります。それでも地方圏の郡部で高齢者の生活の足として需要があるのです。購入を考えると、軽自動車が高齢者専用の電動車のシニアカーが、ユーザーにとっての選択肢になることが多いのですが、2人乗りで奥さん(あるいは旦那さん)を病院に送っていき、自動車ということで脱輪した場合などの緊急時にJAFを呼べるということでシニアカーより小型EVが有利。また地方ではガソリンスタンドが閉鎖により数を減らしており、遠くに給油に行くよりは自宅で充電できる利便さで小型EVを選ぶそうです。

年齢の高まりとともに移動手段においても環境に配慮したものを選ぶ傾向が強まるそうで、これらも小型EVが選択される理由のひとつかもしれません。

チェンジはリチウムイオン電池を搭載しているために注意喚起が必要になります。バッテリー劣化を防ぐためにNAFCAでは、バックアップ態勢を作りあげているとともに、販売時には購入者にバッテリーの価格が車両コストの大きな割合を占めていることを説明、帰ったらすぐに充電してほしいなどとの指導を行っているといっています。

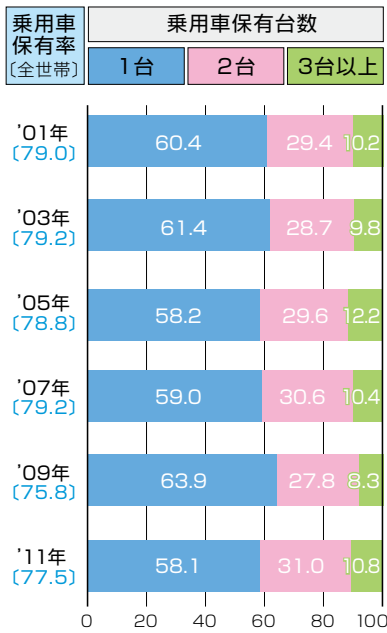
高齢者は日常生活で長距離の移動をすることはありません。それでも運転本数が少ない公共交通機関よりも自前の足を持っている方が便利と感じます。こうした生活の中で日本でもEV需要が増えて行くことになりそうです。

円熟度が高まる日本の乗用車市場

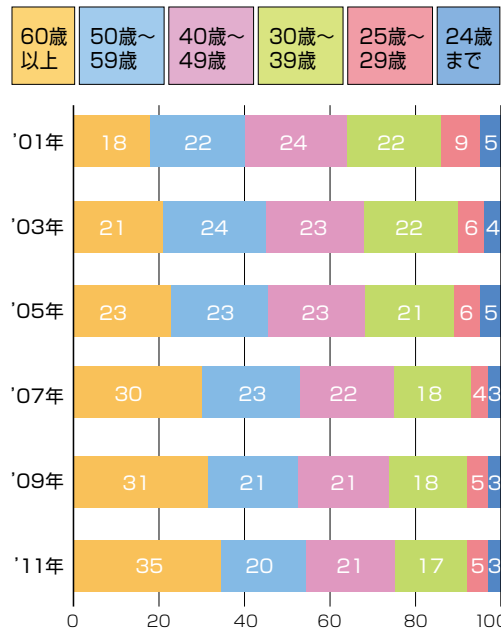
高齡化、節約志向が変化を探るキーワード 月間平均走行距離は410kmとさらに短く

日本自動車工業会が2011年度の「乗用車市場動向調査」をまとめ、発表しました。長引く不況により、保有期間は長期化、小型車から軽自動車へと低価格志向による保有車のダウンサイジングが進行している、などとしています。

世帯ごとの乗用車保有の変化 単位:%



主運転者年齢の変化 単位:%



62%に、また地方圏郡部でも05年の11%から16%へ増加していました。ライフステージ別の「独身期」(39歳以下の単身者)で05年の53%から62%へと上昇していました。

四輪自動車を保有していない理由では、①「維持費の負担」29%、②「使用用途がなくなる・ない」20%、③「高齢・病気・体力的理由」19%が3大要因になります。首都圏や独身期では①、②の理由が高く、その裏返しで独身期では維持費の負担が軽減できれば保有したいという回答が72%に達しています。「家族形成期」(子供が未就学、または39歳以下で子供のいない世帯)でも82%に達しており、若年層では維持費の負担軽減が保有を拡大するために重要な要素になることがわかります。

深刻なのは③です。地方圏の郡部、都市周辺部でも車を手放す要因となっており、当然、高齢世帯でも保有を諦めるトップ要因となっています。

その上、主運転者の高齢化が進んでいます。主運転者が65歳以上という世帯は今回調査では35%(2001年度調査18%)、男性運転者だけみると42%に、また女性運転者でも23%が65歳以上でした。運転者の高齢化にともない車の使い方にも変化があり、今回調査では「買物・用足し他」という使い方が40%(2001年度調査31%)、月間平均走行距離も410km(同450km)と短縮化しています。その一方で主運転が毎日利用しているケースは41%で、長期時系列的に大きな変化がありません。乗用車は軽自動車を主体に、短い距離でちょこちょこ利用されている一、そうした状況が定着しているようです。

乗用車市場動向調査は2年に1回行われており、2011年度の調査は、東日本大震災の影響が一段落した昨年9月に実施したものです。乗用車世帯保有率77.5%(2001年度調査79.0%)、乗用車複数保有率41.8%(同39.6%)と世帯保有動向は長期時系列でみると大きな変化はないとする一方、市場全体としてダウンサイジングが進行、運転者の高齢化が進んでいることが明確になりました。

ダウンサイジングでは、軽自動車保有が増加傾向です。最近購入したクルマ(複数保有世帯に対してはその前に購入したクルマを含む)の33%が軽自動車という調査結果でした。複数保有世帯では、維持費の負担から

中・大型車を手放して軽自動車に替えるとの傾向がみられるほか、首都圏、地方都市などの地域性、年取、ライフステージの区別なく軽自動車の保有は増える傾向にあります。

複数保有世帯では、小型車から大型車までを複数保有する世帯は減少し、1500ccクラスの乗用車と軽自動車、タイプの違う軽乗用車を複数保有する世帯が増えています。

一方、四輪自動車を持っていないと答えた世帯は20%、平均世帯年収の最も低い層(年126万円)で51%と約半数が保有していないことなど、超時系列的に変化がない状況もある半面、持っていないという世帯が、首都圏中心部(東京23区)で2005年調査の44%から今回調査で

NGP 今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP 平成24年3月: **7,714 t**

NGP 1月からの累計: **21,098 t** (全12団体 1月からの累計 **37,581 t**)

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



NGP 平成24年3月: **23.0 t**

NGP 1月からの累計: **65.0 t**

※リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に加えて2011年2月よりバンパー用の運用を開始しました。

2011年度の新車販売動向

消費者の節約志向くっきり、 低燃費車が上位を占める

2011年度の車名別新車販売ランキング（軽自動車を含む）で、トヨタ自動車の「プリウス」が3年連続のトップになりました。

節約志向を高めた消費者は、ハイブリッド車が燃費の良い軽自動車を選ぶ傾向が強まっていることが、はっきりと表れています。

車名別販売ランキングトップのトヨタ「プリウス」は、ワゴン車の「プリウスα」を含み、2011年度に前期比9.6%増の31万484台の販売を記録しました。2位はホンダの「フィット」で、「フィットシャトル」を含めて同23.8%増の23万4432台を販売しました。「プリウス」シリーズはハイブリッドのみ、ホンダの「フィット」シリーズもハイブリッド車が設定されており、そのハイブリッド車人気販売を押し上げました。

ちなみに2011年度の登録乗用車販売は同2.2%増の273万2613台で、「プリウス」シリーズだけでもハイブリッド車は11.3%の比率に達しており、ハイブリッド車全体では登録乗用車販売の4分の1ほどを占める勢いです。

このほか、車名別販売ランキングベスト10には、スズキの「ワゴンR」「アルト」、ダイハツ工業の「ミラ」「ムーヴ」「タント」と軽自動車が上位に顔を出しています。

これを国土交通省が発表した「燃費の良いガソリン車ベスト10」と比較すると、各自動車メーカーの販売政策が影響し多少のズレはありますが、燃費の良い車種が車名別販売ランキングの上位に位置づけられます。車名別販売ランキングのスズキ「ワゴンR」のJC08モード燃費値は23.6km/ℓで、軽乗用車だけでみれば燃費ベスト

10にランクインしています。

また、日産「セレナ」、昨年秋にハイブリッド車が加わったホンダ「フリード」も、重量区別で燃費値を見たときにそれぞれの車型がベスト10にランキングしています。燃費の良いワンボックスということで車名別販売上位に名を連ねています。

国土交通省が発表した「燃費の良いガソリン車ベスト10」は、2011年末時点で販売されているガソリン車を「普通・小型自動車区分」、「軽自動車区分」に分けて公表しています。軽自動車区分では第1位のスズキ「アルト」（JC08モード燃費値30.2km/ℓ）から第10位のスズキ「ワゴンR」/マツダ「AZ-ワゴン」（同23.6km/ℓ）まで。

一方、「普通・小型自動車区分」ではトップのトヨタ「プリウス」（同32.6km/ℓ）からホンダ「CR-Z」（同22.8km/ℓ）まで、ベスト10中9台をトヨタ、ホンダのハイブリッド車が占めました。唯一ハイブリッド車ではないのが、第7位にランクされたマツダ「デミオ」（同25.0km/ℓ）です。ちなみに年度の販売台数は前

2011年度の乗用車車名別販売ベスト10 （登録車・軽自動車合計）

順位	車名	ブランド	台数	前年比
1	プリウス	トヨタ	310,484	9.6
2	フィット	ホンダ	234,432	23.8
3	ワゴンR	スズキ	174,225	▲1.7
4	ミラ	ダイハツ	171,301	99.5
5	ムーヴ	ダイハツ	144,398	4.7
6	タント	ダイハツ	139,322	▲17.5
7	ヴィッツ	トヨタ	125,663	▲1.9
8	セレナ	日産	93,755	31.1
9	アルト	スズキ	92,992	▲2.0
10	フリード	ホンダ	90,414	▲0.7

燃費の良いガソリン車ベスト15 （2012年3月末現在の販売車、MT車除く）

順位	車名	ブランド	JC08モード燃費値	総排気量
1	プリウス*	トヨタ	32.6 km/ℓ	1,797cc
2	CT200h*	トヨタ	30.4 km/ℓ	1,797cc
3	アルト	スズキ	30.2 km/ℓ	658cc
4	ミライース	ダイハツ	30.0 km/ℓ	658cc
5	インサイト*	ホンダ	27.2 km/ℓ	1,339cc
6	ムーヴ	ダイハツ	27.0 km/ℓ	658cc
6	ステラ#1	スバル	27.0 km/ℓ	658cc
8	プリウスα*	トヨタ	26.2 km/ℓ	1,797cc
9	フィット*	ホンダ	26.0 km/ℓ	1,339cc
9	フィットシャトル*	ホンダ	26.0 km/ℓ	1,339cc
11	デミオ	マツダ	25.0 km/ℓ	1,298cc
12	タントエグゼ	ダイハツ	24.8 km/ℓ	658cc
12	ルクラ#1	スバル	24.8 km/ℓ	658cc
12	タント	ダイハツ	24.8 km/ℓ	658cc
15	MRワゴン	スズキ	24.2 km/ℓ	658cc
15	モコ#2	日産	24.2 km/ℓ	658cc

注：国土交通省の発表をもとに登録車、軽自動車を通してJC08モード燃費値を準に選定。*印はハイブリッド車、#1の製造メーカーはダイハツ、#2の製造メーカーはスズキ。

期比9.0%増の6万6118台で、軽自動車、輸入車を除く乗用車新車販売台数でも第7位にランキングしています。

リビルトメーカー交歓会を開催

さらに売れる環境づくりで 活発な意見を交換

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合・株式会社NGPと提携リビルトメーカー各社による恒例の「リビルトメーカー交歓会」が4月20日、NGP本部があるビル内の貸会議室で開かれました。昨年は東日本大震災があったため交歓会の開催を見送りましたので、2年ぶりの開催となりました。今回は、新メンバーを加えて提携リビルト

メーカーから16社27人が参加しました。

交歓会冒頭、長谷川利彦NGP協同組合理事長・株式会社NGP社長があいさつに立ち、「忌憚のない意見交換を行い、リビルト部品がさらに売れる環境を協力して作っていきましょう」と呼びかけました。

昨年10月の総会でNGP協同組合の執行体制が変わったこと、提携リビルトメー

カーにも新メンバーが加わったことで、交歓会の会議は参加者それぞれの自己紹介から始まりました。

引き続き、市場環境分析や販売動向について活発な意見交換を行うとともに、恒例となっているキャンペーンを5～7月に実施し、提携リビルトメーカー各社の協力を得て整備事業者の皆様にも魅了ある商品提供を行うことを決めました。



意見交換を重ね、さらにリビルト部品を売るための環境整備を追求

第14回ハイブリッドカーセミナー開催

高い電圧に対する安全確保から PHVの最新メカまでを集中研修

第14回ハイブリッドカーセミナーが、4月9・10日に静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで実施されました。人工呼吸、心臓マッサージ、AED(自動体外式除細動器)の扱い方と



心臓マッサージに続いてAEDの使い方を研修、万が一に備える



実車を使って確認、最新のプラグインハイブリッド車も用意されている

いった緊急蘇生法、またハイブリッド自動車の機構や取り扱いの要領を学びました。車両構造の知識の中には、販売が開始されたばかりのプラグインハイブリッド自動車の説明も含まれています。

参加者は、「10年後、20年後にハイブリッド車、電気自動車が日本の新車販売の50%を占めるようになり、ますます需要は増えると言われていたので、大変勉強になりました」(福島

リパーツ、佐々木健太さん)、「短い時間の研修でしたが、大切な項目での講義がポイントと思うので、資料を大切に今後の生産業務に生かしていきたい」(茨城オートパーツセンター、八幡直樹さん)、「触れる機会がなかったトヨタの車両を使って、インバーターのはずし方、感電しない・させない工夫や万が一の対応方法を学び、あたらしい技術が身につきました」(ユアアンドアイ、新沼敏貞さん)、「研修は基礎的な内容ですが、その基礎をしっかりと学んでおけば、これからのハイブリッドカーにも対応できることがわかりました」(パーツライン、楠元光司さん)と、ハイブリッドカーの最新知識を得て、今後の業務に対する意欲をかき立てています。

NGP協同組合本部から参加した谷洋紀さんも「ハイブリッド車が事故を起こした場合、ここがダメになりやすい等々の実践的なアドバイスをいただきました。お客様満足度を向上できると思うので、こうした情報を組合員に展開していけたらよいなと思いました」と話していました。

市地球温暖化対策地域協議会がオートパーツ伊地知を見学 自動車リサイクル部品で意見交換

かごしま市地球温暖化対策地域協議会が3月23日、オートパーツ伊地知(鹿児島県鹿児島市)を訪問、工場見学と自動車リサイクル部品の生産・販売について地球環境保全の視点で意見交換を行いました。

市地球温暖化対策地域協議会は、市民、事業者、行政が協力して温室効果ガス排出削減を進めるために2007年7月に設立されました。市が「地球温暖化対策地域推進計画」で掲げた温室効果ガス削減目標の達成を目指した活動に取り組んでいます。オートパーツ伊地知を訪ねたこともこの一環で、自動車リサイクル部品が地球温暖化対策に

どのように役立っているのかについて、現場での取り組みを見学し、質疑応答や意見交換が行われました。

オートパーツ伊地知では伊地知志郎社長が対応し、自動車リサイクル部品の生産・商品化の工程や在庫管理を案内するとともに、リサイクル部品を使うことで自動車修理におけるCO₂排出削減が達成できるなどの説明をしました。さらに4月からNGP協同組合で取り組みを開始したベルマーク運動の説明、社会貢献活動を熱心に取り組んでいることを伝えました。

一方、市地球温暖化対策地域協議会の参



自動車リサイクル部品の重要性を説明するオートパーツ伊地知の伊地知社長

加者からは、「一般の人に販売していますか」「品質保証や(リサイクル部品を)利用する際のアドバイスはどうされていますか」などの質問があったほか、「商品化から在庫までキズがつかないように管理されているのに驚きました」といった感想が寄せられたそうです。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北陸	株式会社ハセ川自動車	移転	〒936-0802 富山県滑川市大掛2002番地 TEL 076-477-7111 FAX 076-477-7112	24年4月9日
九州	株式会社オートパーツ伊地知 熊本営業所	住所表示	〒860-0812 熊本県熊本市中央区南熊本4丁目8-14 メゾンドレクスサスウエノビル2F (熊本市の政令指定都市移行による行政区設置)	24年4月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp